

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670100627		
法人名	社会福祉法人敬寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園		
所在地	山形県山形市大字妙見寺500-1		
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 5 日	開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町2丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 10月 23日	評価結果決定日	平成 24年 11月 21日

(ユニット名 やすらか)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員、利用者共に笑顔が絶えず、いつもグループホーム内は歌を唄うなど明るい雰囲気の中で生活を送っている。また、天気の良い日は昼食を持って出掛けたり、買い物やドライブをするなど施設の中に閉じこもらないようにし、メリハリのある生活を送っている。日常生活の中で、自分に合った役割活動への参加やコミュニケーションを通じ笑顔で過ごせるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の地域密着型サービスであるということを考慮した理念があり、玄関に掲示している。また、月一回のミーティング時、管理者・リーダーより話をし全職員が理念に基づいた、社内研修を行う事で管理者、職員が同じ方向性で取り組んでいけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の介護予防教室や文化祭、盆踊りへの参加や、地域の子供神輿見学など地元の人々と交流をし、地域の方を招いて夏祭りや運営推進会議を開き交流を図っている。また、買い物や公共施設を使用し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に地域包括支援センターが有り、そこが窓口になって取り組んでいる。また、運営推進会議を通して地域の人々に理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで夏祭り、芋煮会、運動会等、行事への参加を通じて実際にグループホームでの利用者との関わりを持って触れ合う事でグループホームを理解して頂けたと思う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている利用者について、市役所職員の面会があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 無断離所を防ぐ為、玄関にセンサーを取り付けたり、安全に生活が送れるように、夜間は玄関の施錠を行っている。また、ミーティング時に職員間で話し合いを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し理解する事で虐待防止に努めている。また、事業所内で虐待が行われないように、ミーティング時にも職員間で呼びかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で成年後見制度を必要とする利用者はいないが、事業所内にいつでも閲覧出来るように成年後見制度についての資料が施設内に置いてある。また、権利擁護の研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の契約や解約の際、十分に話し合いをしている。その際、不安や疑問点を傾聴した上で理解し納得をして頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を言える委員会が設けられており、その旨、ポスターとしてホーム内の玄関に掲示している。面会時、電話や家族会、運営推進会議等でも家族の意見(不満)や苦情を聞くようにしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よろず箱の設置や月1回の全体朝礼・自己評価等で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課があり、働きにあったベースアップがあり、向上心を持って働けるような体制がある。希望する勤務地や事業所への異動や資格取得が出来るように職員に対し常に働きかけている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勤務年数、経験年数に応じて外部の研修に、ほとんどの職員が参加している。月初めの全体朝礼で研修報告を行ったり、全ユニットで研修報告書を供覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	スクラムチャレンジの研修をはじめ、グループホーム職員の交換研修に参加。様々な研修にほとんどの職員が参加し交流を持つ事でサービス向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者・職員が面接をし、入居時、本人・家族と話しをしたり、担当ケアマネの話を聞き、少しでも不安なくスムーズに入居できるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族と話し合い家族等が困っている事や不安な事、求めている事など聞いている。ホーム見学時に十分に話しを聞く場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話しを聞いて、申し込み時に空気が無い時は地域密着型の他の事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員としての目線で、レクリエーションや家事の際、本人の持っている知恵や知識を引き出している。日常生活を共にする事で、互いが学び、支え合って安心感のある生活を築けるように努め、利用者の特性や心情を理解するようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際は家族に参加して頂き、楽しみを共有している。面会時、必要な際はそれぞれの利用者の家族との関係を理解し、必要な際は、職員も間に入り対応している。遠方にある家族については、電話で交流している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、面会や電話があった際は、ゆっくり会話が出来るように場を設けている。通院先でも馴染みの人と会えるように場を設け支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食席やお茶時の席を考慮している。孤立しがちな利用者や、トラブルになりそうな利用者に対し、職員が間に入るなどして回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者の家族には瓦版を発送したり、他施設に移動した利用者に会いにでかけるよう心掛け、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の事を決める際はその都度本人の意見を聞くようにしているが、思いや希望を伝える事が困難な利用者に対しては本人の表情や家族からの話、生活歴を基にケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人生のあゆみ、センター方式を通して家族、本人の会話から情報を得て暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録や会話等を通じ、現状を把握している。一人一人に合った休息の過ごし方や、有する能力にあった役割活動を出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、全職員、管理者を交えたミーティングを行い、本人家族の意見や希望を反映した施設サービス計画書を作成している。三ヶ月毎、見直しを行う事を基本とし利用者の状況に応じて、施設サービス計画書の見直しや家族に現状を伝え本人に見合った施設サービス計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を業務日誌、ケアプランチェック表からケース記録に記入している。また、気づきや変化等あった際は、申し送りノートやヒヤリハットノートにその都度記入し情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生、学生の職場体験・ボランティアの受け入れ、定期的に消防署を交えた防災訓練、期日前選挙投票時の市役所利用や介護予防教室の公民館などの公共施設、自宅近く的美容院、出張散髪を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がある場合は入居後も継続して通院出来るようにしているが、遠方の場合には家族と相談の上、園の提携病院やかかりつけ医を紹介し、往診や職員付き添い、家族対応にて通院して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に日常的に駆けつけられる看護師がおり、容態急変時には、迅速に相談が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、本人に必要な情報を医療機関に提供している。入院先の看護師や家族に話しを聞き、施設で可能な限り対応出来る環境に整った際、早期退院が出来るようにしている。また、GHでの対応が困難な場合は法人内の他施設を紹介している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の指針のもとに、本人、家族、医師と終末期のあり方を話し合っている。また、かかりつけ医と連携し利用者のケアを職員間で話し合い、家族、職員で方針、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、施設内の看護師に相談し、往診や通院の指示を仰いでいる。急変の対応について園内研修を行い緊急時対応マニュアルを掲示している。定期的に職員全員が心肺蘇生法やAED、救急法の実演講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した災害マニュアルがある。年2回の防災訓練を行っている。防災委員会を開催しミーティングで報告、話し合いをしている。災害時用に飲料水や食品、防災グッズ確保し、職員全員が保管場所を把握している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を損ねない言葉掛けに注意しているものの、慣れが生じてしまい、また、過度の方言で声掛けがきつくなってしまうこともあるが、職員間で注意合っている。年間や月間目標にも掲げ掲示する事で常に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好み献立やドライブ、買い物、洋服選び等日常的に場面作りを行い自己決定できるよう働きかけ、その人らしい生活を送って頂けるよう支援している。自己決定が出来ない方については、その人の立場に立った支援や家族から得た情報を生かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の規律ある生活の中で利用者の体調や希望に合わせた言葉掛けをしている。利用者の送りたい生活を個別援助に基づいて日常的に支援し、希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方については化粧や洋服選び、馴染みの美容院の利用をして頂いている。洋服選びやマニキュア塗りなど毎日新しい気分で生活できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はテレビを消しゆったりとした中で食事を行い、誕生会や外出の際は、出前や外食で好みの物を選んでいる。ご飯・麺・パンだけではなく郷土食である笹まきなどバラエティー富んだメニューを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の管理栄養士がバランスの取れた、多くのメニューを考えている。利用者それぞれに合わせた量・形態を提供している。こまめに水分補給して頂いている。食事摂取困難な方には医師から処方された経口栄養剤で栄養摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後、声掛け確認を行っている。希望者には月2回歯科往診による口腔ケアを行っている。歯科衛生師からの説明をうけ職員も口腔内の清潔保持の知識を深めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け個々の排泄パターンを職員全員が把握し、トイレ誘導を行っている。可能な限りトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。日中は全員布パンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶時や食事等で多めに水分補給している。体を動かしたり、トイレ時の腹部マッサージで便秘予防に努めている。排便に繋がらない方については主治医の指示のもと下剤や整腸剤を処方して頂き、ヤクルトや牛乳を個別に購入している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者全員が毎日、就寝前に入浴している。温度や入る長さは個人の意思を尊重している。仲の良い利用者同士入浴出来るように考慮している。入浴時は歌を唄ったり、会話を楽しんでいる。また、入浴時間を変更する際は利用者の了解を得て入浴をして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしたり、夜間に入浴を行う事で、夜間の良眠につなげている。居室で臥床しする利用者もあり、個々のペースで休息を十分に取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース記録にファイルし、職員全員が内容を把握している。服薬チェック表を利用し誤薬しないよう職員2名で準備・確認をしている。飲み合わせの悪い食品を目の届く所に掲示している。利用者に合った渡し方、飲みにくい方には粉状に処方して頂いたり、オブラート使用し服薬している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族、センター方式で聞いた生活歴をもとに一人一人のADLに合った役割活動、散歩、ドライブに参加している。また外出・行事・誕生会を行う事で楽しみやメリハリのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや買い物、外での食事などに出掛け、車が使用出来ない時は園庭での食事やひなたぼっこ等、ホーム内だけの生活にならないように支援している。また、通院時に本人希望で馴染みの店に出掛けた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に紛失やトラブルを避ける為、職員側で管理しているが、家族と相談の上、一定の金額を本人所有の財布に小遣い金から補充している方もいる。また、支払いが出来る方については、財布の中から自ら支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から小包等が送られてきた際、本人のADLに合わせた支援方法で電話をかけ、会話をしている。必要に応じて職員が間に入ることもある。他にも電話したいという希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間がオープンスペースになっており食事作りの音や匂いが日常的に漂っている。ホーム内に風が入るよう換気はまめに行っている。玄関や居間には、外出した際やホーム内での写真や花を飾り、彩り豊かな空間作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間、居室で思い思いの過ごし方をしている。また、仲の良い利用者が隣同士で会話や食事が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが入居時、使い慣れた馴染みの物を持ってきて頂けるよう家族に話をしている。また、亡くなった家族の写真や位牌、以前より信仰している神様のお札等を持ってきて頂くなど入居前と同じような生活が送れるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内や玄関に手擦りが設置され不便なく生活している。また、障害となるような物も配置を変えたことでより広くスペースをつかうことが出来、快適に過ごせている。		